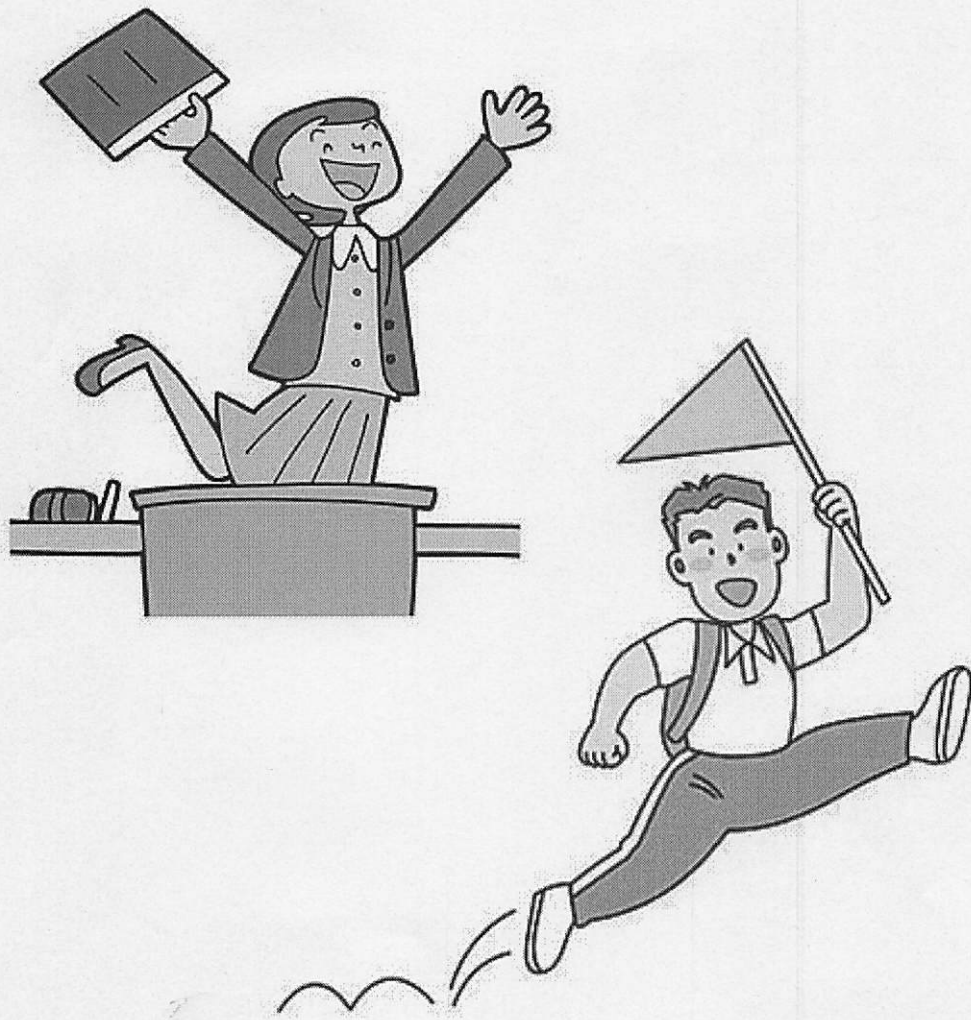


多治見市版

力の付く授業はこうつくる！

授業改善実践集



多治見市小・中学校研究主任会

多治見市版「力の付く授業はこうつくる！」
授業改善実践集 目次

はじめに	研究主任会 顧問 笠原小学校 校長 樋口 一成	1
【学習方法・指導方法・学び方】		
No.1	仲間と学習する力を高める物語分の読み取り指導 ～学び方を定着させた上での関連発言リレー方式～	3
No.2	わかった、できたという喜びのある算数授業 ～筋道立てて考えたり、自分の考えを表現したりする力を育成するための指導の在り方～	4
No.3	仲間と共に運動を楽しむ児童の育成 ～活動意欲を満たすための約束づくり・場の設定～	6
No.4	言語活動の充実を図る、効果的な授業展開の工夫 ～言語活動の充実を通して、確かな力をつける指導～	8
No.5	「話す・聞く」ことを身に付けさせる授業改善 ～必要な情報を読み取り、よさと問題点を整理し、自分の考えをまとめるための指導法～	9
No.6	英語科授業の「場の設定」における授業改善 ～英語教授法を活用し、言語活動の充実を目指した指導～	10
No.7	思考力を高める言語活動の工夫 ～生徒が主体となって学ぶ授業づくりを目指して～	12
No.8	数学の楽しさを実感させる授業づくり ～図形領域の指導を通して～	14
No.9	実技指導におけるICT機器を活用した授業改善 ～タブレット端末を活用した作品交流および動画による実技評価～	15
No.10	生徒の実態、種目の特性を生かした単元指導計画 ～「場の設定」「学習内容」「指導内容」に着目して～	16
【学び合い・意見交流】		
No.11	わかった、できたという喜びのある算数授業 ～筋道を考えたり、自分の考えを表現したりする力を育成するための指導の在り方～	19
No.12	国語の授業の交流における授業改善 ～交流における話し合いの場の在り方について～	21
No.13	理科の授業の生徒交流における授業改善 ～生徒交流を通して自分の考えをもたせる指導～	23
No.14	「わかろうとして聞く」「伝わるように話す」生徒の育成	24
No.15	社会の授業の学び合いにおける授業改善 ～目的をもたせた仲間との学び合いの工夫～	25
【板書】		
No.16	算数科少人数指導における授業改善 ～個のつますきに応じた適切な指導の在り方～	27
No.17	算数の授業の板書の工夫	28
No.18	児童の思考や授業の流れが分かる板書	30
No.19	自分の考えを表現する児童を育成するための工夫 ～算数の授業における 板書の工夫 ・ ペア交流の在り方～	32
【個別指導・個人追求・机間指導】		
No.20	S-P表を使った的確な実態把握と指導の工夫 ～レディネステストによる実態把握及び分析と少人数指導への活かし方～	33
No.21	一人一人が高まりを感じられる算数指導 ～実態に応じた3つのスペース～	34

No.22	国語における一人読みの力を付ける授業改善 ～5年生「大造じいさんとガン」を通して～	35
No.23	体育の授業の個別指導における授業改善 ～個のつまずきに応じる指導内容と方法～	37
No.24	国語の授業の個人追究における授業改善 ～3年説明文における一人読みの指導～	39
No.25	児童の主体的な学習姿勢を生み出す指導の在り方 ～前時の形成的評価に基づいた、机間指導の在り方について～	40
No.26	国語の授業の交流における授業改善 ～個のつまずきに応じた個別指導の在り方について～	41
No.27	社会科「前半場面」の授業改善 ～主体的な追究を生み出す課題設定と個人追究指導の在り方～	43
No.28	算数の授業の個別指導における授業改善 ～個別指導における児童に考えをもたせるための指導～	44
No.29	保体・数学・美術の学習活動での個別指導における授業改善から ～「できる・分かる」を実感するための学習指導～	45
No.30	生徒の実態を的確に把握する授業の工夫 ～生徒が主体となって学ぶ授業づくりを目指して～	46
No.31	社会の授業の机間指導における授業改善 ～個々の状態に応じた支援の在り方についての工夫～	48
No.32	美術の授業の個別指導における授業改善 ～個別指導における教師の立ち位置に意味をもたせた指導～	49
【評価・価値付け・方向付け】		
No.33	学びの自覚を図る評価の在り方 ～評価の目的と自己評価と相互評価～	51
No.34	国語「書くこと領域」における評価の在り方 ～2年生「おもちゃの作り方」を通して～	53
No.35	外国語活動の評価における授業改善 ～ねらいと評価に一貫性をもたせた指導の在り方について～	55
No.36	音楽科の評価における授業改善 ～ねらいと評価が一体となった自己評価の在り方について～	56
No.37	児童の主体的な学習姿勢を生み出す指導の在り方 ～単元出口の児童の具体的な姿を明確にした単弁指導の構想手順と評価方法について～	57
【授業振り返り表】		
○	小学校 授業振り返り表	59
○	中学校 授業振り返り表	60

はじめに

多治見市小・中学校研究主任会顧問 笠原小学校長 樋口一成

近年、日本国内では、少子高齢化や経済格差、環境問題の深刻化、国際化や高度情報化、地域共同体の崩壊などの社会問題が新しい様相を示しています。変化の激しくて厳しいこのような社会の中で将来、児童生徒がたくましく生き抜いていくために、「確かな学力」の育成、「心の教育」の充実、「健やかな体」の育成が学校教育の重要な課題であり、この「たくましく生き抜く力」を育成するに当たって解決しなければならない今日的な諸課題が山積しています。

このような状況の中で教育改革が進められていますが、いつの時代においても「授業改善」こそ「教育改革」の最大の課題であると言われていています。多治見市小・中学校研究主任会では、この一年間、この「授業改善」に取り組み、ここに各学校の実践をまとめることができました。

たくましく生き抜く力を育成するための「授業改善」の視点として、

(1) 各教科の「学び方」を育てる。

自分で自分を意欲喚起し、自ら学ぶ力を付け、その中での学習経験や学習内容を使って確かな学力を身に付けることができるようにする。

(2) 使える「知識・理解」を身に付けさせる。

生きて働く「知識・理解」にするために、教師の一方向的な講義式の授業や座学ばかりをしていては学び方も身に付かないし、知識の詰め込みだけで終わってしまいがちとなる。具体的な活動や体験を通して、その学習後も実践に結びつくような知識や理解を身に付けさせる。

(3) しっかりとものごとを考える力を付ける。

人は全ての行動において瞬時、瞬時に考え、判断し、行動している。どうしたら、考える力が付くか。課題を工夫したり、言語活動が重視されている中で、多様な表現活動を工夫し、選択できるようにしたりする。等々

また、授業改善の一つとして、多治見市教育研究所より提案のあった「ICTの活用」がありました。ICTは、①時間や空間を問わずに、データ等を蓄積・送受信でき、時間的・空間的制約を超える、②距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやりとりができる（双方向性）、③多様で大量の情報を収集・編集などができ、カスタマイズが容易である、などの特長を生かすことにより、これまで実現が難しかった学習場面が容易になるケースが生まれ、一斉学習、個別学習及び協働学習を効果的に行うことができるようになります。

例えば、市内のA小学校では、一斉指導における子どものつまづきを解消するために、学級の児童全員にiPadを持たせて、タブレット端末を活用した算数の授業が行われたり、脳活学習においても個々の認知に配慮した教科の補充指導がなされたりしています。その成果として、音や絵があるためゲーム感覚で取りかかりやすい、即時に答えが合っているかがわかるので自分ですぐにやり直しができる、どうしても100点を取りたいという意欲をもって取り組む子どもが多い、などの報告がなされました。

教育改革が「授業レベルでの改革」にたどりつくためには、個々の教師の個人的な裁量に委ねられています。一人一人の教師による教育活動、つまり、「授業」そのものが改善されているかどうかで、それは私たち教師の「情熱」と「力量」にかかっています。